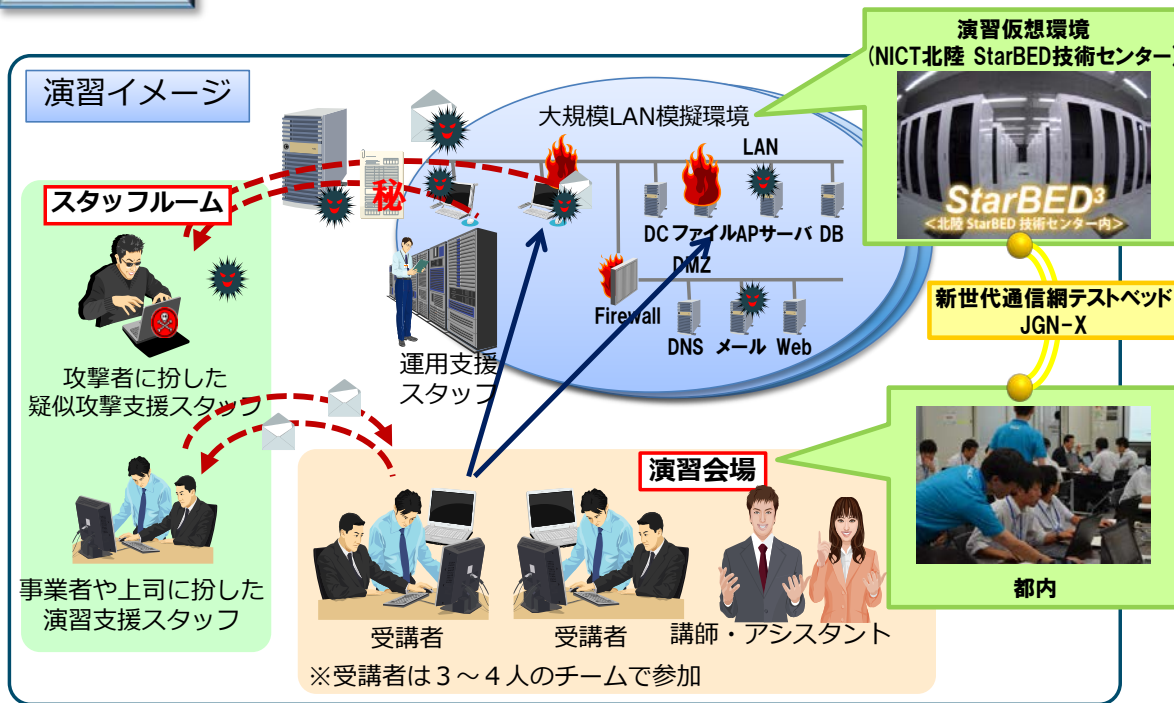


実践的サイバー防御演習 (CYDER: CYber Defense Exercise with Recurrence)

- 官公庁・大企業等のLAN管理者のサイバー攻撃への対応能力向上のため、実践的なサイバー防御演習を実施。
- 職員が数千人規模の組織内ネットワークを模擬した大規模環境によるサイバー演習は国内唯一。
- 平成25年度に開始し、現在3年目。サイバー攻撃の最新動向を元に毎年実践的な防御モデルの改良を積み重ね。

概要図



CYDERの特徴

- ✓ **大規模かつリアルな模擬演習環境**
数千人規模の組織内ネットワークを忠実に再現した**大規模かつリアルな模擬環境**で演習を実施
- ✓ **サイバー攻撃への一連の対応を体験**
ログの分析など個々の技術的対応にとどまらず、チームでの参加により、**インシデントハンドリングの一連の流れを体験**することで、組織としての実践的対処能力を強化

平成27年度の取組結果

- ✓ **参加組織数**
約80組織のLAN管理者が演習に参加
- ✓ **官公庁・重要インフラ事業者に加え、重要な情報を持つ独法・特殊法人も参加**
- ✓ **新規シナリオの追加**
年金機構事案を想定した**標的型メール攻撃**に対応

来年度に向けた施策強化

- ・ 年金機構の事案等を踏まえ、演習の主たる対象に、**独法及び地方公共団体等を追加し、年間の演習受講者を大幅に増大**することを検討
- ・ 大規模設備やネットワークセキュリティに関する幅広い知見を有する国立研究開発法人**情報通信研究機構 (NICT)**が、それらを活用して**継続的・安定的に実践的サイバー防御演習を実施**できるよう法改正を検討